

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090500238		
法人名	特定非営利活動法人あやめ		
事業所名	グループホームあやめ		
所在地	長野県飯田市川路2682番地		
自己評価作成日	令和3年2月28日	評価結果市町村受理日	令和3年7月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特定非営利活動法人あやめは、「地域福祉の拠点」という理念の下に、宅老所さろんあやめ(通所)・介護センターあやめ(居宅)そして、グループホームあやめを設立してきたことで、馴染みの利用者さんが継続した介護が受けられ、地域の人たちが安心して生活できるようになりました。同一法人内なので事業所間の連携が取りやすい環境です。今年度はコロナ禍で、ご家族との面会や外出の制限をしたり、地域の演芸ボランティアや保育園との定期交流会、小学校への行事参加などができず、利用者さん達もストレスの溜まった1年となりました。そんな中でも、保育園からはひまわりの苗を届けていただいたり、小学校からは定期的に子ども達の絵や習字などの作品を持って来ていただいたりして、施設の壁に飾らせてもらいました。直接会っての交流が難しい状況でしたが、できることを考え実行することで、心温まる交流ができました。

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kanagawakenkyo.go.jp/20/index.php?action=kenkyo_dettai_20-18_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2090500238-00&amp;PrefCd=20&amp;VersionCd=022">http://www.kanagawakenkyo.go.jp/20/index.php?action=kenkyo_dettai_20-18_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2090500238-00&amp;PrefCd=20&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルスの感染拡大により、訪問日程が延期され、4月15日になってしまった。その当日は、訪問を迎い入れるグループホームでは、体温測定・手指消毒を行い、訪問記録を記入してもらうという体制をきちんととり、訪問する評価機関の評価員はマスクを着用し、体温測定・手指消毒をきちんと行い、訪問調査を行った。調査に当たっては、2人の調査員で、休憩を十分とり、利用者との接触・会話を避け、必要最小限の時間で終了するようにしてきた。  
こうした調査を終え、グループホームでは地域の交流が少なくなり、外出する機会も減り、家族との面会をも制限せざるを得ない環境でも、できる限りの対応を考え、実践していることを改めて知ることとなった。そして、利用者の認知症の症状が進む中、その具体的な対応を考え、実践してきている職員の姿を垣間見ることができた。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所		
所在地	長野県飯田市東中央通5丁目59番地1		
訪問調査日	令和3年4月15日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名( )			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働けている (11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

グループホーム あやめ  
(別紙)  
自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価 実践状況	外部評価	
	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>		
1 (1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域で、最後までその人らしく住み続けられる」と言う法人の理念に基づき、今年度は、グループホームの理念を作成しました。	本年度法人の理念を基に、職員と話し合い、「ご利用者が生き生きとされ、笑顔がたくさんみられるような支援を心掛け、地域やご家族に愛され信頼される事業所を目指します」と言うグループホーム独自の理念を作り上げた。
2 (2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には地域のいろいろな方々に参加していただき、グループホームでの様子を伝え、理解を広げています。「あやめ便り」を通じてグループホームの活動内容や日頃の様子を発信しています。今年度はコロナ禍ため、保育園や小学校との交流会を中止しています。	このグループホームは、地域のニーズを、地域の方々とともに実現してきたと言う経過があり、地域との繋がりが非常に強い。本年度は、新型コロナウイルスの感染予防のため、保育園・小学校との交流会や地域ボランティアの訪問等ができなかったが、ひまわりの苗や児童作品の交換など、できる限りの交流を行っている。
3 ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には地域のいろいろな方々に参加していただき、グループホームでの様子を伝え、理解し合っています。「あやめ便り」で年4回、グループホームの活動内容や日頃の様子を発信しています。	
4 (3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、会議終了後にアンケートを実施しています。質問や疑問に挙げたことを職員会で報告し、前向きに検討しています。	法人内に「感染症対策委員会」を設置し、法人全体で新型コロナウイルスの感染予防に取り組んでいることを運営推進会議に報告している。そしてその後のアンケートで出された問題や体温計・マスクの取り扱いについても職員会で話し合ってきている。
5 (4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センターの方々に出席し、意見や要望をいただいています。また、川路自治振興センターの新しい職員の方にも、出席し、意見や要望をいただいています。	運営推進会議には、地域包括支援センターの職員の参加だけでなく、自治振興センターの職員の参加もあり、地域と幅広く連絡をとっている。また、「あやめ便り」を作成し、地域に広く発信している。
6 (5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度は、身体拘束適正化検討会を実施しました。現在の状況確認・実態把握を話し合い、改善の目安や時期について確認しています。	骨折してから認知症の症状が進み、車椅子の移動が多くなった利用者について、ベルトを使用している。家族と話し合い、認知症の薬を見直したりして改善に向けた取り組みを続けている。
7 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度はコロナ禍ため、外部の研修は見合わせました。身体拘束適正化検討会で、現在の状況確認・実態把握をみんなで話し合い、改善の目安や時期について確認しました。	

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者さんの中には、自分で金銭管理をされている方がいますが、いろいろなことの理解が徐々にできなくなっているのが、今後に心配になります。関わる職員を限定して、金銭の対応もしています。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度は、コロナ禍のため家族会を中止しました。運営推進会議も書面での対応でしたが、不安や疑問があれば、直接管理者に連絡していただくように説明しています。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議の後に、アンケートを実施しています。そこでの意見や提案については、職員会や法人の所長会議でも報告し、話し合っています。	普段は、担当者がコミュニケーションをとって、利用者や家族の意見や要望を採り入れるようにしている。家族から骨折後のリハビリの要望があったが、話し合いで解決してきている。また、家族や運営推進委員からのアンケートについては、適時職員会で話し合うようにしている。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会で挙げた議題について、法人の所長会議で検討しています。所長会議で解決できないことは、法人の運営委員会で話し合っています。	職員会の書記を持ち回りにしたり、職員1人が利用者2人の担当になったり、主任・行事・物品・外回り・防災の役割分担したりして、職員相互の話し合いが活発に行われている。グループホームだけでは解決できない課題については、法人内の所長会議で話し合うようになっている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の会話の中で、聞き取りを行っています。年1回の自己評価や面接の際に各職員が向上心を持って働けるよう心掛けています。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員がかつていろいろな事業所や異なる介護施設で働いていたので、それぞれが高いスキルを持っていることを感じています。それぞれが得意分野で力を発揮しています。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナ禍のため、各種研修は見合わせました。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	私たちは、信頼していただけるようにしっかりコミュニケーションを図り、円滑な関係づくりを心掛けています。利用者さんの心配事にそのつどしっかり向き合い、グループホームが居心地の良い場所になるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの導入段階では、ケアマネジャーと管理者が家族の不安や要望に耳を傾け、その後は担当職員が窓口となり、いろいろな相談にのっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意向を確認しています。できるだけ今までの生活が変わってしまわないよう、徐々にグループホームでの生活に慣れていただけるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんに役割を果たしていただけるような場面を探し、提供するとともに、役割を果たしてくださった時は、感謝の言葉を伝えています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	それぞれの利用者さんに担当職員を設け、ご家族への連絡をお願いしています。前年の外部評価での助言により、毎月利用者さんの様子を手紙でお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんの親戚や友人、近所の方々などに気軽に面会に来ていただけるようにお伝えしています。今年度はコロナ禍のため、面会やボランティアの受入れを見合わせてきました。	新型コロナウイルスの感染拡大により、家族との面会においても、窓越しの面談であるとか、その時、その場の事情に応じて対応している。これまでの保育園や小学校との交流も、電話や手紙などの方法を通じて継続してきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係を職員が共有するように努めています。そして、利用者さん同士が自然に関わりが持てるような環境づくりを心掛けています。		

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は遠方に住むご家族に代わって、受診や入院のお手伝いをしました。ご家族の不安を少しでも軽減できるように相談したり、医療機関との連携を行ってきました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんの希望や意向を大切に、日頃からコミュニケーションを大事にしています。また、利用者さんを中心とした支援が行えるよう心掛けています。ご家族・関係者からも入所以前の情報を得るようにしています。	利用者の希望や意向は家族などの聞き取りにより「アセスメントチャート」を活用して、一人ひとりの「介護記録」に記入している。そして、その意向に沿うように職員と話し合っている。例えば、これまで家庭で毎日入浴していた利用者には、週2回の入浴の回数を、週4回に増やして対応している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に、これまで過ごしていた施設やお世話になっていたケアマネージャーから情報提供していただいたり、ご家族や友人知人の話を聞きいたりして、十分な把握に努めています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを理解して、持てる能力が発揮できる状況を見極めながら支援に努めています。利用者さんのわかることやできることを職員同士で確認しながら行っています。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしい暮らしを支援するため、日々の生活の中から課題を見つけ、担当職員を中心にモニタリングを行い、職員会でカンファレンスを行っています。また、ご本人やご家族に意見・要望を聞いて反映し、状況に応じた介護計画を作成しています。	利用者の一人ひとりの食事・薬・排便・排尿の「一日の流れ」の表と介護の記録をもとに、モニタリングを行っている。この表は分かりやすいので担当職員がモニタリングするのに大変役立っている。また、利用者の一人ひとりの薬の服用状況をわかりやすくまとめ、介護計画に役立てている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量や排泄状況等の他、ご本人の言葉や行動などのできごとを記録しています。その他、「連絡ノート」を作り、職員間で情報の共有に努めています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんの状況に応じて、買い物代行や病院への受診・入院のお手伝いなどを支援しています。		

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のお店まで散歩したりしながら、気分転換を図っています。今年度はコロナ禍のため、ボランティアや交流会の受入れを見合わせてきました。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係構築しながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回のかかりつけ医の往診時には、これまでの状況報告を行い、往診の記録をとっています。利用者さんに薬や体調面の心配事などを、直接先生に話を聞いてもらうようにもしています。	月2回かかりつけ医の往診もあり、専任の看護師もいて、普段の健康保持については安心できる。緊急時の場合には、近くの病院で受診できるように医療連携を行っている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専任の看護師さんに、日頃の健康状態や医療面での相談や処置をしていただき、医療連携を図りました。緊急時には、「さろんあやめ」の看護師も協力して対応してくれます。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の様子を時々ご家族へうかがい、回復状況などの情報をいただき、退院時には速やかにご本人の状態に合わせた支援ができるように心掛けています。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年度、重度化・終末期対応の指針を作成しました。私どもとご家族、主治医にも協力していただき、みんなが納得できる方針に話を進めました。	昨年度作成した「重度化・終末期対応の指針」に沿って、入所の時や家族会の折りに説明し、実施してきた。本年度は看取りはなく、家族やかかりつけ医との相談の結果、病院へ入院した2人の元利用者が亡くなれた。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は、専任の看護師さんにいつでも電話で相談できる体制を整えました。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行いました。その内の1回は、「さろんあやめ」と合同で、防災担当者を設置し、防災避難計画を作成しました。	コロナ禍の中であったが、防災訓練を行ってきた。本年度は、このグループホームがオール電化のため、緊急時に使用できる発電機を備えた。36災害時にはこの地域までは浸水しなかったが、イエローゾーンの土砂災害警戒区域であるため、いろいろな課題がある。	イエローゾーンの土砂災害警戒区域であるので、洪水時・土砂災害時などの防災計画を立てたい。

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	以前に比べ、指示が伝わらない利用者さんが増えていますが、利用者さん一人ひとりがゆっくり過ごせるグループホームを目指していけると良いと思います。	これまで入所していた利用者の認知症の症状が進み、コロナ禍のため職員がマスク着用の対応をしてきている。そのため、利用者にとっては職員の言葉や表情を把握できないことが多くなってきたという。そこで、利用者一人ひとりの尊重とプライバシーを確保しながら、的確で短い指示をして、対応するようになった。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんのそれぞれの状態に合わせて、できるだけ自分で決めていただくように努めています。また、各担当職員がそれぞれの利用者さんの希望や好みを見極め、生活の中へ採り入れるように努めています。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせてではなく、一人ひとりの体調や状況に合わせた個別性のある対応を心掛けています。認知症でできないことに対して、丁寧にゆっくり時間をかけて相手が理解するのを待つように努めています。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好きな洋服を選ぶように、ご本人の気持ちを配慮した支援をしています。定期的に床屋や訪問美容を依頼し、その人らしさを保てるよう心掛けています。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんと一緒に、野菜の下ごしらえや味噌汁やカレーを作ったり、食器や湯飲み拭きなどをしたりするような、個別にできることを手伝っていただいています。	徐々に委託を減らして、現在は夕食の食材を委託している。そのため、その食材を工夫したり、時にはカレーや五平餅を利用者と一緒で作って、一緒に楽しく会食をしている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食利用者さんと職員が同じ物を一緒に食事しています。観察しながら、食べやすい形態を検討して工夫したり、食べる量を検討したりして利用者さんの体調に配慮しています。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には個別に声かけし、口腔・舌のケアを行っています。見守りや、介助が必要な方にもできるだけご本人に行っていただき、できない部分の介助をさせていただいています。利用者さんによっては、歯科衛生士さんに入っいただき、歯磨き指導を受けています。		

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所を分かりやすいよう表示しています。声かけに配慮しながら、ご本人の習慣やパターンに合わせた誘導を行っています。	利用者の状況に応じ、いろいろなパターンで声かけし、排泄介助を行っている。例えば、おむつを使用している利用者には、手すり立って交換したり、夜はおむつでも昼はリハビリパンツを使用したりして、快適に過ごすことができるように支援している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し便秘予防に努めています。日頃から散歩や屋内での適度な運動や手作りヨーグルトを毎日食べて便秘の予防をしています。下剤を使い過ぎないように話し合っています。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者さんの好みに合わせた室温・湯温を心掛けています。順番やその日入る利用者さんを配慮して、ゆっくりとお風呂に入りたい方にも十分時間をかけています。立位が困難になってもリフトを使って入浴することができます。入浴剤などを使いリラックスした雰囲気心掛けています。	入浴チェックを毎日行い、楽しんで入浴できるように努めている。入浴は週2回が普通であるが、利用者の意向によって週4回の入浴もある。また、リフト浴も2人ほどいる。浴室からトイレにすぐ行けるようになっていて、いざという時には便利である。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を増やして生活リズムを整えています。午睡の習慣のない方には、読書、軽作業など、自分の好きなことをしていただいています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケースに服薬内容の明細を置き、各職員が内容をいつでも確認できるようにしています。確実に服薬できるように管理表へ1日分を並べ、一目で飲み忘れが確認できるようにしています。薬の変更があった場合は、その後の様子などを観察しています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さん同士が助け合い協力し合って生活を送ることで、良好な関係が作られます。生活に張り合いが持てるように支援しています。個々に得意なことや、お願いできそうな仕事を依頼し、そのつど、感謝の言葉かけをするようにしています。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外へ散歩やドライブなどに出かけ、気分転換をしています。食材や日用品の買い出しにも、同行してもらっています。	新型コロナウイルスの感染拡大の中でも、近所の散歩をしたり、買い物は車の中で過ごすだけでも気分転換になるように配慮しながら行っている。ドライブも暑い時には中止になるが、利用者は楽しみにしている。訪問日にも、職員と一緒に散歩に出かける利用者の姿を見かけた。	



グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さんによっては、銀行にも一緒に行って金銭管理のお手伝いをしています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんによっては携帯電話を持参しているため、いつでも連絡が取れるように支援しています。グループホームへきた電話にご本人に出迎えていただき、話していただくこともあります。		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースには季節の分るような飾りを飾ったり、花を飾ったりして、心地よい空間作りを目指しています。	設立当初から共用空間は配置が考えられており、玄関・居間・食堂・廊下は建物の中央部に一直線上に位置し、広く、明るく、また、居室から出てくるのに便利で、居心地が良い空間となっている。設立当初とは居間と食堂の位置を変えて、さらに便利になってきている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外が見える窓際にソファを置き、気の合う方々でゆっくり話ができる場所としています。広いベランダで天気の良い日は日向ぼっこをしています。		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんが、それぞれにとって居心地の良い居室になるように、担当職員を中心に職員会で話し合い、ご自分の好きなハーモニカやラジカセを置いて、ゆったり過ごしてもらっています。	利用者のそれぞれの居室は、換気がよく、温度計・湿度計を備え、健康・安全に配慮されている。また、どの居室も出入り口を広く取っており、車椅子やベッドが余裕を持って移動できるようになっている。クローゼットなども配置され、それに、利用者の好みや必要とする物を持ち込んで、すっきりとした空間になっている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自分の居室が分かりやすい目印や名前を付けています。できるだけ、ご自分の部屋をモップなどで掃除してもらっています。		